第２号様式（第５条、第６条、第７条、第８条関係）

No 1

平成　29　年度　政務活動費支出整理簿

会派名 きずなクラブ

氏　名 冷水　保

項　目	研修費		
費　目	旅費		
整理番号	月　日	支出額（円）	支　出　内　容
1	8 ／ 25	51,720	日本地域創生学会設立大会等　旅費（東京都目黒区）日程、場所等は調査視察等届出書等に記載
2	3 ／ 29	114,480	地方議員研究会 議会活動集中講座　旅費・宿泊費（福岡県福岡市）日程、場所等は調査視察等届出書等に記載
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
	／		
小　計		166,200	備　考
合　計		166,200	

※案分による支出の場合は、案分率等を支出内容欄に記入してください。

整理番号 1

第３号様式（第６条、第８条関係）

平成２９年６月２日

会派名　　きずなクラブ
代表者名　　田名部　和　義　　様

氏　　名　　三　浦　博　司

調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第６条第１項の規定により、次のとおり届出します。

１　旅行者　　三浦博司 議員

２　期　間　　平成２９年８月２５(金)～平成２９年８月２６(土)

３　場　所　　東京都目黒区

４　目的及び内容　日本地域創生学会設立大会
全国自治体職員の集い
全国首長・地方議員の集い

５　経　費　　５１，７２０円
【内訳は、旅費額計算書（第４号様式）に記載のとおり】

第４号様式（第６条、第８条関係）

旅　費　額　計　算　書

旅行日程			旅費計算の基礎					
行き	8/25	本八戸駅発 13:55	区分		基数	単価	金額	備考
	8/25	東京駅着 17:04	早見表					
帰り	8/26	東京駅発 14:20						
	8/26	本八戸駅着 17:24						
経路・滞在地			鉄道運賃		638.0k	9,610	17,280	本八戸⇔東京(往復割引)
8/25（金）					k			
13:55 本八戸駅発(八戸線)					k			
14:04 八戸駅着					k			
14:16 八戸駅発(はやぶさ 22)			急行料金	特	2	6,160	12,320	八戸⇔東京 631.9K
17:04 東京駅着								
8/26（土）								
10:00～12:30								
日本地域創生学会設立大会								
全国自治体職員の集い								
全国首長・地方議員の集い								
［会場］				急				
東大駒場キャンパス 18 号館			特別車両料金		2	4,110	8,220	八戸⇔東京 631.9K
（東京都目黒区駒場 3 丁目 8-1）								
14:20 東京駅発(はやぶさ 23)			航空運賃					
17:04 八戸駅着			バス運賃					
17:15 八戸駅発(八戸線)								
17:24 本八戸駅着			宿泊料		1	13,900	13,900	8/25 東京都
			小計				51,720	
			合計（小計×人数）				51,720	1 名

第５号様式（第６条、第８条関係）

平成２９年　９月２２日

会派名　　きずなクラブ
代表者名　　田名部　和　義　　様

氏　　名　　三　浦　博　司　㊞

調査視察等報告書

平成２９年６月２日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第６条第１項の規定により次のとおり報告します。

１　旅行者　　三浦博司 議員

２　期　間　　平成２９年８月２５(金)～平成２９年８月２６(土)

３　場　所　　東京都目黒区

４　概　要　　別紙のとおり

研修報告書

〇研修項目：

「日本地域創生学会設立大会　全国自治体職員の集い　全国首長・地方議員の集い」

（１）開会講演：「地域創生と人財養成―命育・五感六育―」

東京農業大学教授 木村 俊昭氏（内閣官房シティマネージャー）

（２）部会：地域創生　全国首長・地方議会議員の今後の展開を考える

座長：石阪 督規氏（埼玉大学）

〇日　時：平成２９年８月２６日（土）１０：００～１２：３０

〇会　場：東京大学駒場キャンパス１８号館１階ホール他

■研修内容■

（１）開会講演：「地域創生と人財養成―命育・五感六育―」

内閣官房シティマネージャーを務める東京農業大学教授の木村俊昭氏より開会のあいさつと講演があった。

木村俊昭氏は日本地域創生学会設立準備委員会の委員長として、今回の大会を主催した一人である。日本地域創生学会とは、将来の日本、地域を担う経営者をはじめ、地域創生に関心を持つ有識者らで組織し、産学官金公民が連携し、地域資源を利活用のうえ、徹底的に研き、事業構想の策定とその実現を目指す組織である。日本の繁栄は、地域創生から始まる。日本の各地域の特性を大切にし、各地域に将来の希望と活力をもたらすため、実学・現場重視、全体最適思考や、五感六育の発想を活かし、地域創生に関する学術的研究や提言を実践するとともに、地域を担う人財養成を目的とするものである。

この学会は１１支部からスタートし、一般社団法人化も見据えていた。実学現場主義で、大事なのは「ひと」であり、行動してもらえなければ変化はない

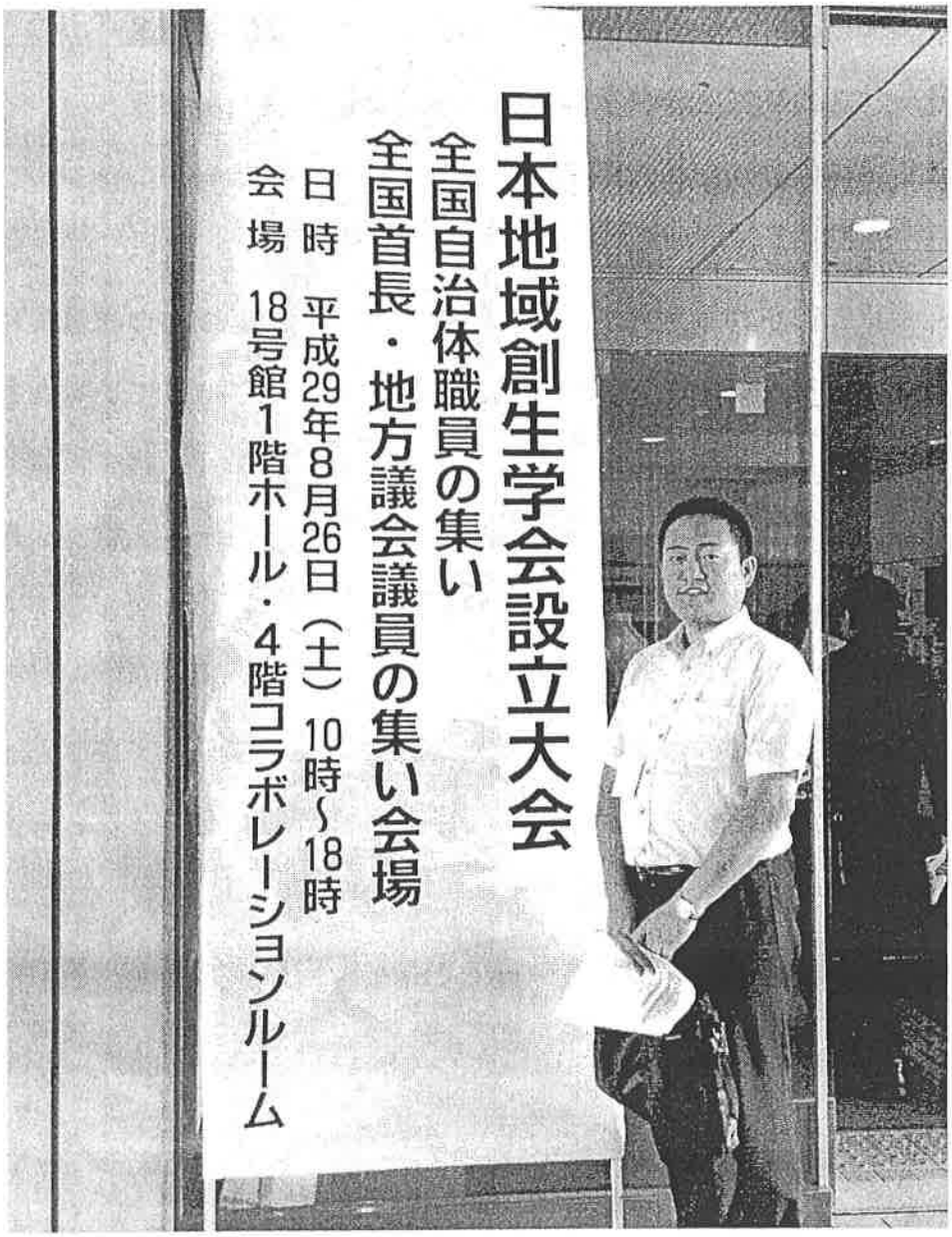
という。

「地域を変える力とは何か？」地域とはどこのことを言うのか？変えるというのは、誰が変えたいと思っているのかが大事であり、広聴、傾聴、対話無くして実らないという。そして、知り、気付き、事実をしっかり伝える、総合的な考える力が必要であるとのことであった。

少子高齢化において、高齢化人口は３０～４０％なので商売が成り立たないと嘆く人がいるが、成り立っているところは「ある」のである。平成２７年商

店街実態調査の公的な数字では、繁栄１％、繁栄の兆し２％、９７％は繁栄する兆しも可能性もないと回答している。

順番がある。まず、基幹産業を知ること。何で生計を立てている街なのか。例えば、ラーメン屋や蕎麦屋が何軒ありますか？という問いに答えられていない。そして、何故、この街にラーメン屋を開業しようと思ったのかということが大事である。また、例えば、林業で一家族で生計を立てられている人たちはどれくらいのなのか。また、多くの人を雇用し給料を支払い多くの税金を納めている企業ランキングはどうなっていますか。上位に必ず建設業がくる。



次に、起業を促す時に、どんな人たちがどんな業種で起業を促すのか。それは、基幹産業が元気になる起業を優先支援すること。銀行も好意を示すという。

そして、最後に、企業誘致である。企業誘致は基幹産業の関連企業を増やすことから始めなければならない。

優先する順番が違うということはストーリーがないということで、目標設定や役割分担がないということ。そして、どの地域をモデルにするのかも大事である。

コンサルに丸投げでは何も解決しない。まず広聴、傾聴、対話を通して生のデータを収集蓄積すること。そこからの政策立案でなければならない。

ＲＥＳＡＳ（リーサス）地域経済分析システムを活用した産業振興ビジョンを策定すべき。まち全体の最適化が大事である。そのまちのキラーコンテンツが見えてくる。

講演を伺い、希望にあふれる自分がいた。１次産業×２次産業×３次産業による６次産業化が大事であるが、この学会は、６次産業化につなげていくための産業を新たに創出し４次産業を創ることを目指していた。研究、調査、構想づくり、コンサル、発信、人的ネットワーク構築、コーディネート人材、人財育成、街の話をする空間づくりなど地域で戦略会議の開催などが４次産業であった。

これからは、海外アジアとのビジネスなどの交流が必須になり、アジアと一緒に発展していくという発想が「我が街」にも求められていくということに共感した。

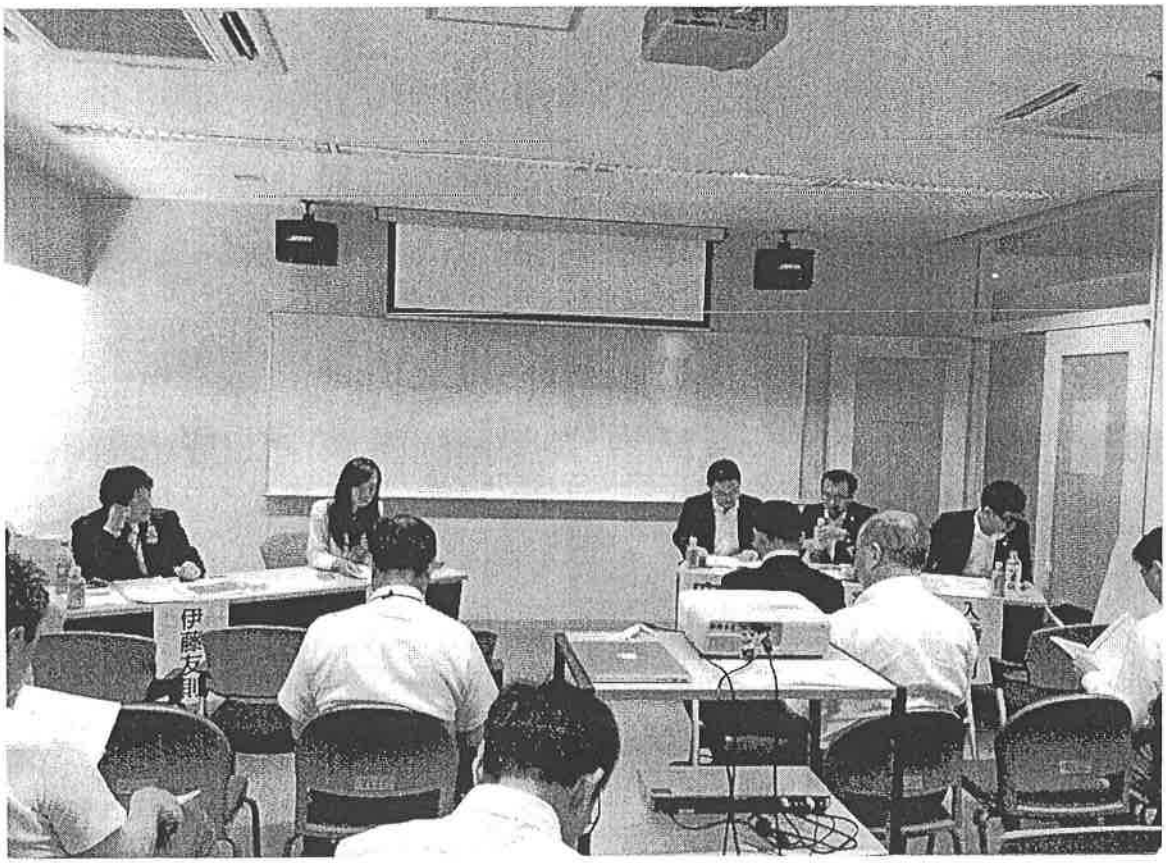
地域創生の方程式のような誰もが扱える標準化したものを提供するために、志のある人材を学会で把握し、協力協同して、コンサルタント集団が生まれる期待感を持った。

（２）部会：地域創生　全国首長・地方議会議員の今後の展開を考える

地方創生、全国首長・地方議会議員の今後の展開を考えると題して部会が開催された。座長は埼玉大学の石阪督規氏で、パネラーとして香取市議会議員の伊藤友則氏、世田谷区議会議員のひうち優子氏、神戸町議会議員の宮嶋健太郎氏、神石高原町長の入江嘉則氏が、それぞれの活動報告を通して、地方創生の今後の展開を話し合った。

伊藤友則議員は、高校卒業後に、スイスのローザンヌのブリヤンモン・インターナショナルスクールとアメリカのウィスコンシン州立大学スティーブンス・ポイント校の留学を経て、２１歳のころ、国会議員の秘書をしながら、通信制で、慶應義塾大学法学部政治学科を卒業した。卒論は代議制と選挙制度であり、指導教授は小林良彰先生である。

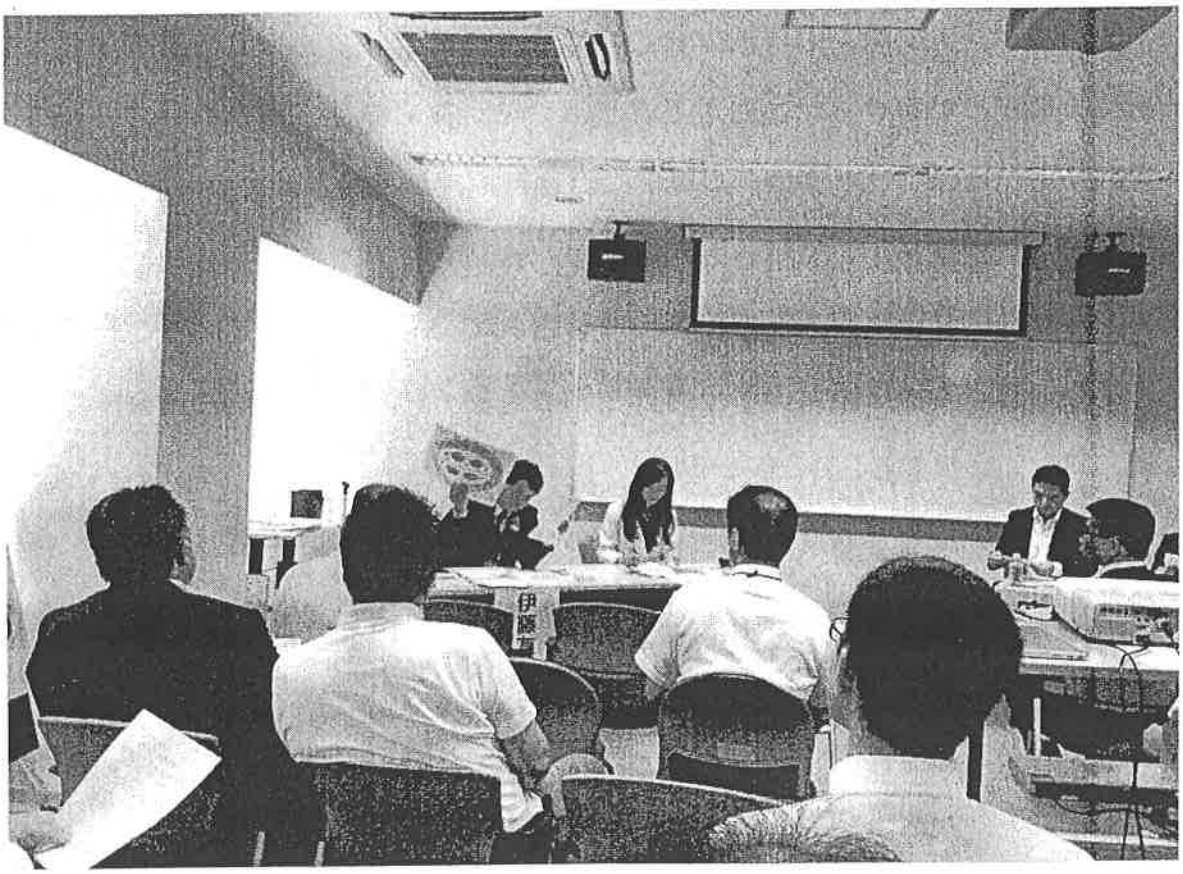
その後、明治大学大学院政治経済学研究科政治学専攻博士前期課程を修了し、修論は、市町村合併である。そして千葉大学大学院人文社会科学研究科（公共研究）で博士後期課程に在学中であり、ニューパブリックマネジメントを学んでいる。１年次発表テーマは「山梨県の無尽について」、２年次発表予定テーマは「千葉県内市町村における住民参加の考察」で、「持続可能な多世代共創社会のデザイン」「多世代参加型ストックマネジメント手法の普及を通じた地方自治体での持続可能性の確保」の研究活動をおこなっている。



これまでの５期にわたる議会活動において議長も経験され、大学、大学院で公共マネジメントについて継続的に学んでいる姿勢に感銘を受けた。理論と実践と現場に即した学術的知見に基づいて、我が街を考察している取り組み姿勢に共感した。

特に、千葉大学大学院社会科学研究院の倉阪秀史教授が代表責任者を務め、千葉大学、芝浦工業大学、国立環境研究所が実施機関となり、八千代市、市原市、館山市、千葉県が協力自治体になっているオポッサム（地域ストック持続可能性マネジメントOPOSSUM）についての話は大変、興味深いものであった。

オポッサムとはストックマネジメントによる公共経営であり、人口減少と高齢化、インフラの老朽化、温暖化と自然荒廃、地方消滅と無縁社会といった様々な課題に直面する中、人的資本（ひとストック）、人工資本（ものストック）、自然資本（しぜんストック）、社会関係資本（しくみストック）の領域において、幸せな生活を支えるストックの健全さを持続させる管理運営手法でした。



ひうち優子議員は、東京学芸大学教育学部を卒業した後、慶應義塾大学法学部を卒業し、平成１９年に世田谷区議会議員に初当選してから現在３期目であ

る。幼・小・中・高等学校教諭１種免許も取得しており行政書士でもある。平成２５年にはマニフェスト大賞優秀政策提言賞を受賞している。

大都市である首都、東京都にあっても、世田谷区には世田谷区にしかない独特な地域性があった。３，０００億円規模の財源のほとんどが住民税であり、法人税は東京都に納められている。全国的に、人口減少と言われているが、世田谷区は、ここ１０年で約５万人増えて約８９万人の人口になっていた。世田谷区には子育てのために引っ越してくる方が多いのだという。世田谷区は緑の維持管理を大切にしているため、緑の宅地化をどのように防ぐかが大きな政策課題になっていた。

増田レポートでは、人口減少社会の大きな要因の一つとして、東京など大都市に人口が吸い寄せられ、生活基盤が追い付かなくなり、日本の地方の人口を吸収するだけのブラックホール現象に陥る可能性が指摘されている。

しかし、東京都が、世田谷区が吸収した人口を住みやすい暮らしやすい子育てしやすい、介護に適した自治体に改善されていくよう努めていくことが大切であり、ひうち優子議員のような取り組みを熱心にしている地方議会議員が必要不可欠だと実感した。

宮嶋健太郎議員からは、神戸わかもの会議について主に説明があった。神戸町は岐阜県にあって人口２万人で議会議員が１０人という町である。歴史は古く、日吉神社の門前町として栄えてきた。

神戸わかもの会議は、全国各地の若者が一挙に集い、ゲストスピーカーの話題提供や地域へのフィールドワークを経て、課題解決の方法を探る会議である。

様々なバックグランドを持った若者の有益な場づくりがおこなわれていた。わかものと地域の方々が一緒になって地域課題について考え、解決プランを提言していく仕組みになっている。

人にスポットをあてて、地域活性化に興味のある人材を発掘して見出して、育てていく手法に、地方創生、地域活性化の原理原則を感じた。

神石高原町の入江嘉則町長からは首長からの視点を学ぶことができ、行政の長と地方議会の双方から、地方創生、地域活性化の原理原則に触れる機会をえることができた。

広島県にある神石高原町では、神石高原ふるさと回帰塾を開催している。地域リーダーとしての人材育成を通して起業等により地域活性化につなげていくことを大きな目的に開催していた。町内施設において、２泊３日の合宿形式で行われている本気度に注目したい。

地方の現状認識、地域の魅力、先進事例、起業の可能性、仲間づくりなどを通して活躍できる力を養成する塾である。

神石高原町が主催し、地元のＮＰＯ法人が運営している。卒塾した人材が、神石高原町で起業等をおこなってもらい、地域活性化につなげていこうとするものである。

地方に行けば行くほど、近くに大学など学ぶ機会が限られ、情報や有為な人材との交流も限られてしまう。

そのギャップを埋めるべく、町が主催して、行政の信頼と人的ネットワークを活用することで、合宿を通じて、学術的な要素や先進事例を学び、志ある仲間を作ることができる機会づくりは、とても参考になった。

整理番号2

第３号様式（第６条、第８条関係）

平成３０年２月１３日

会派名　　きずなクラブ
代表者名　　田名部　和　義　　様

氏　　名　　寺　地　則　行

調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第６条第１項の規定により、次のとおり届出します。

１　旅行者　　寺地則行 議員

２　期　間　　平成３０年３月２９日(木)～３月３１日(土)

３　場　所　　福岡県福岡市
リファレンス駅東ビル

４　目的及び内容　　地方議員研究会 議会活動集中講座
・議会改革注意点と議会・議員の未来
・率直に語る地方議員に関わるお金の考え方
・質問方法スキルアップ研修初級編

５　経　費　　１１４，４８０円
【内訳は、旅費額計算書（第４号様式）に記載のとおり】

第４号様式（第６条、第８条関係）

旅　費　額　計　算　書

旅行日程			旅費計算の基礎				
行き	3/29	八戸駅発　9：05	区　分	基　数	単　価	金　額	備　考
	3/29	博多駅着　17：33	早見表				
帰り	3/31	博多駅発　13：33					
	3/31	八戸駅着　22：05					
経路・滞在地			鉄道運賃	1,811.2k	18,680	33,620	八戸⇔博多（往復割引）
				k			
3/29（木） 9:05 八戸駅発(はやぶさ 12) 12:04 東京駅着 12:30 東京駅発(のぞみ 33) 17:33 博多駅着 （福岡市内泊）				k			
				k			
			急行料金 特	2	6,160	12,320	八戸⇔東京　631.9K
				2	8,610	17,220	東京⇔博多　1,174.9k
3/30（金） 議会活動集中講座 会場：リファレンス駅東ビル （福岡県福岡市博多区博多駅東 1-16-14） 主催：地方議員研究会			急行料金 急				
10:00～12:30 ・議会改革注意点と議会・議員の未来			特別車両料金	2	4,110	8,220	八戸⇔東京　631.9K
				2	7,650	15,300	東京⇔博多　1,174.9k
14:00～16:30 ・率直に語る地方議員に関わるお金の考え方 （福岡市内泊）			船運賃				
			航空運賃				
			バス運賃				
3/31（土） 10:00～12:30 ・質問方法スキルアップ研修初級編 13:33 博多駅発(のぞみ 34) 18:33 東京駅着 19:20 東京駅発(はやぶさ 37) 22:05 八戸駅着			宿泊料	2	13,900	27,800	3/29、3/30 福岡市
			小　計			114,480	
			合　計（小計×人数）			114,480	1名

第５号様式（第６条、第８条関係）

平成３０年３月３１日

会派名　　きずなクラブ
代表者名　　田名部　和　義　　様

氏　　名　　寺　地　則　行　㊞

調査視察等報告書

平成３０年２月１３日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第６条第１項の規定により次のとおり報告します。

１　旅行者　　寺地則行 議員

２　期　間　　平成３０年３月２９日(木)～３月３１日(土)

３　場　所　　福岡県福岡市
リファレンス駅東ビル

４　概　要　　別紙のとおり

平成29年度 議会活動集中講座報告書

〔日程及び研修項目〕

平成30年3月29日(月) 八戸出発 9:05
3月29日(月) 博多駅着 17:00
平成30年3月30日(火) 10:00～12:30 議会改革注意点と議会議員の未来
14:00～16:30 率直に語る地方議員に関わるお金の考え方
平成30年3月31日(水) 10:00～12:00 質問方法スキルアップ研修
博多出発 13:33
八戸駅着 22:05

〔研修について〕

主催 地方議員研究会
講士 高橋 伸介
受講料 45,000円

〔研修内容〕

別紙参照

〔所感〕

議員としての基礎・基本を再認識すると共に、考え方や進め方、議員活動におけるさまざまの観点から講演がなされた。講師を務められた高橋さんは、大阪府枚方市議会議員4期の経験と、銀行マン、オンブズマンの経験からの多様な視点での話や、多くの示唆をこめた話が大変勉強になりました。今後の議会活動にとりまして有意義な講座でありました。